

第4回千里浜海岸保全対策検討委員会 講事要旨

1. 日 時：平成 19 年 7 月 13 日（金）13 時 00 分～15 時 00 分
2. 場 所：地場産業振興センター 新館 5 F「第 1 2 研修室」
3. 出席者：石田委員長、川村委員、玉井委員、塚脇委員、福濱委員、本吉委員、中江委員
（中村委員、池本委員、高橋委員は欠席）
4. 議題
 - （1）講事公開の可否について
 - （2）第 3 回検討委員会における講事要旨の確認
 - （3）千里浜海岸の保全と活用について
第 3 回検討委員会の確認事項
第 4 回技術専門部会での検討
報告事項
 - （4）各委員からの質疑・意見
 - （5）第 4 回検討委員会のまとめ
5. 議事概要
 - （1）植田参事から開催の挨拶が行われた。
 - （2）委員長から講事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
 - （3）事務局から第 3 回検討委員会における講事要旨の確認が行われた。
 - （4）事務局から「千里浜の保全と活用として、第 3 回検討委員会での確認事項、第 4 回技術専門部会での検討、報告事項」について報告、説明が行われた。
各委員からの主な意見・質問は次項以降の通り。
 - （5）事務局から閉会の挨拶が行われた。

討議者	討議項目	小項目	内容
石田委員長	保全対策の 検討	土砂動態	バー地形の沖合移動は、バー地形を形成している土砂がすべて沖合に移動しているわけではなく、形が変化しているものと推定される。
玉井委員			従来の資料から岸沖方向の土砂移動にも、注目していく必要がある。
石田委員長			千里浜海岸は、やや北側から波が当たる割合が1年間を通じて見るとやや多いのではないかと。理由としては、宝達川河口の砂利の点在箇所を見ると、細かい砂とは違うがどちらかというのと南方面に転がっている割合が多い。
中江委員			羽咋川の左岸に矢板みたいなものが出ており、それなりの効果があったと聞いている。
事務局			羽咋川河口部で導流堤があります。現在は、先端部が老朽化しているが、以前はそこまで砂はついたような状態であったと認識している。漂砂方向の確認するためにも、羽咋川河口周辺にも矢板突堤を設けて漂砂の確認をしていくこととしている。
中江委員			宝達川左岸南側の米出地域では、大量の砂利が発生している。
石田委員長			砂利の上に被っていた砂が、南あるいは沖方面へ流れてなくなったものと推定される。
玉井委員			宝達川の砂利については、上に被っている砂の補給があれば、砂利は見えない。上層が砂の補給が無くなり、下層の砂利が見えてきたものと推定される。
福濱委員			土砂収支の傾向としては概ね妥当と考える。今後は、金沢港周辺等の堆積土砂を千里浜海岸に持っていくための調査検討をすぐにも始める必要がある。
塚脇委員			広域イメージ図を確かめる長期的なモニタリングも緊急対策と合わせて必要と考える。
石田委員長			海底地形調査が効果的と考えられ、データーを積上げていくことが重要である。

討議者	討議項目	小項目	内容
玉井委員	保全対策の 検討	千里浜海岸の 保全対策	全体的には、中長期的なものとの緊急的な対策という2段階に分けるのは順当といえる。ただし、広域、中長期的な対策という点では、やはり石川海岸も含めた広域な土砂収支、土砂動態ということを考えていく必要がある。
事務局			最近、総合土砂管理ということで、今こういう議論が緒についたばかり。石川県としても今後、国と協議しながら進めていきたい。
石田委員長			直ぐには難しいが、長期的には、手取川などから海岸への供給土砂を増量させていきたい。
福濱委員			長期的というのは大体何年ぐらいか。
石田委員長			定義はないが、緊急的とは数年程度、中期的は約5年程、長期的は約10年程ぐらいで、超長期的には約10年以上からと考えている。
事務局			千里浜海岸に限ると5年とかという短い期間に著しく狭くなってきたとの認識が地元でも多い。
塚脇委員			地質学では、緊急は数年、中期50年、長期1,000年という感覚である。砂浜が減っていくのは間違いない海岸なので、早く何らかの対策が必要である。
玉井委員			総合土砂管理は、河川域から流出土砂や石川海岸も含めた広域を対象とする名称と思われる。河北千里浜海岸の対策と時間スケールも異なってくるため適切な名称とすべき。
石田委員長			総合土砂管理という言葉は、もう少し空間的にも広域的に使っているため、河北千里浜海岸では「総合」という言葉をつけず、例えば単に「土砂管理」というようにしていきたい。
福濱委員			千里浜海岸だけでなく、河北千里浜海岸全体で侵食が進んでいる。 長期的には広域での土砂管理が必要となり、今すぐにも総合土砂管理の検討を始めていく必要がある。

討議者	討議項目	小項目	内容
石田委員長	保全対策の 検討	千里浜海岸の 保全対策	<p>抜本的解決ということになると、長期的に見た場合、手取川からの流出土砂増量と金沢港の浚渫土砂等の有効活用などである。</p> <p>金沢港の浚渫土砂を北上する海流に自然に流してやる仕組みも考えられる。</p> <p>また、港内の浚渫量の軽減と海岸域からの土砂流入の軽減という観点から、東防砂堤を延伸することも考えられる。</p>
玉井委員			<p>東防砂堤の延伸は、近場に堆積する可能性が高いので、最も遠方に位置する千里浜海岸に対する影響については、慎重に検討する必要がある。</p>
石田委員長	保全対策の 検討	千里浜海岸の 緊急的対策	<p>約 2 万 m³/年の養浜量は絶対量としては少ないが、緊急的としての対策も必要であり、現時点で現実的に調達可能な量である。</p>
川村委員			<p>人工リーフ設置前には、よく調査をした方が良いのでは。</p>
事務局			<p>本年度は、現地で、仮設の矢板突堤により沿岸漂砂の方向を確認する予定である。それを確認した上で、構造物を設置していきたいと考えている。</p> <p>また、構造物を入れることと並行して、効果的なモニタリング調査を実施していきたいと考えている。</p>
玉井委員			<p>養浜については、滝港周辺や羽咋川河口部の堆積土を活用するという案は妥当である。ただし、モニタリング調査は非常に重要である。</p>
本吉委員			<p>何らかの対策を早くお願いしたいという思いが地元では大変強い。提案された緊急的対策は、緊急的ではあるが、是非こういった方策もとって頂けたらと思う。</p>

討議者	討議項目	小項目	内容
石田委員長		総括	<p>これまでの検討委員会の結論として、</p> <ul style="list-style-type: none">・長期的には総合土砂管理などで、大規模な養浜で保全することが望ましいが、直ぐには困難であるため、緊急的対策も必要である。・緊急的対策としては、養浜量を増やすとともに人工リーフ工法との併用により、侵食を軽減させる。・人工リーフの設置位置は、沿岸漂砂が金沢方面向きであることや能登有料道路と背後の民家防護の観点から、千里浜海岸南端部が適する。 <p>附帯意見として、</p> <ul style="list-style-type: none">・人工リーフ設置の前に、1年程度現地での漂砂方向調査を実施のこと。・緊急対策と並行しながら、モニタリング調査などを実施のこと。・広域的な「総合土砂管理」も重要であり、今後は別途に、学識経験者を入れた委員会などを設立して検討のこと。